2019 年度ＡＥＤ訓練器等助成事業 活動実績報告書

（2019 年度分）

団体名	救急・災害医療&防災教育研究会

【目的・動機】

少子高齢化社会の進展により、薬剤師の職能に対して社会のニーズが大きく変化している。路上を通行中の体調不良、患者の薬局来局時や薬剤師が患者宅を在宅訪問した際の急変など、薬剤師や医療事務が救急対応をする機会が増加している。また、飲食店での食物アレルギーによるアナフィラキシーショック対策のニーズが多く寄せられている。そこで、医療・介護従事者、薬学部 3 年生、飲食店関係者などの一般の方が、救急医療の正しい知識・技能・態度を習得することにより、救急・災害時に自らの安全を確保し、適切に行動できることを目的とした。

【活動の実施方法や内容】

大阪府内に勤務する薬剤師、医療事務、歯科衛生士を対象に、職場で急変患者が発生した場合の一次救命処置、119 番通報、アナフィラキシーショック対応について、座学および実技指導を実施した。また、私立大学薬学部 3 年生 115 人を対象として、救急事例および災害事例を概説し、一次救命処置、119 番通報、アナフィラキシーショック対応座学および実技指導を実施した。さらに、大阪医専の教員および救急救命士学科 3 年生による二次救命処置を見学し、一次救命処置の意義をディスカッションしてもらった。ICLS コースインストラクター資格を保有する薬剤師には、一次救命処置のより専門的な知識と解説方法を学んでいただいた。

【活動で得られた成果】

大阪府は 2018 年に被災したことにより、救急医療および防災に対するニーズが高まっているように思われる。受講した方からは、「最初は、もし職場でなにかが起きても自分にはできないと思っていたけど、急変時に駆け付ける勇気が持てました。」「救急医療に興味を持ちました。」「二次救命処置を見たことで、一次救命処置を周りの人がする意義を理解しました。」という感想が寄せられた。出務するスタッフは、救急救命士、薬剤師が中心であることから、受講者の立場や背景に配慮して、理解度や習熟度に合わせたインストラクションを習得する必要があると考えている。